

# 資料No.4-1

江田島市公共交通協議会  
令和4年3月22日

## 『乗って江田島航路スタンプラリー2021』について

### 1 概要

市内の航路事業者と連携して行った『乗って江田島航路スタンプラリー2021』の実施期間（R3.9.18～R4.1.17）が終了したので、その結果を報告します。

### 2 イベント内容

#### (1) 対象航路

広島市と呉市を結ぶ市内6航路（※秋月航路は運休中のため除く。）

#### (2) 実施期間

令和3年9月18日（土）～令和4年1月17日（月）

#### (3) 賞品（スタンプ数に応じて、抽選で賞品をプレゼント。）

A賞（スタンプ6個）：「江田島荘ペア無料宿泊券」

B賞（スタンプ4個以上）：「牡蠣の詰め合わせセット」

C賞（スタンプ2個以上）：「江田島市特製ステーションナリーセット」

Wチャンス賞（上記に外れた方限定）：矢野帆夏さんサイン入りオリジナルパーカー

#### (4) 市広報大使 STU48 矢野帆夏さんの全面協力

○リーフレットやポスター撮影，SNSでの情報発信等への協力。

○瀬戸内シーライン(株)協力のもと，三高航路のフェリーを貸切運航し，市広報大使と船内で交流する特別乗船イベントを開催。（参加者数：計60名）

### 3 費用

| 項目                                | 金額      | 備考                        |
|-----------------------------------|---------|---------------------------|
| オリジナルパーカー(Wチャンス賞)<br>&Tシャツ(各港展示用) | 53,570  | パーカー 10枚<br>Tシャツ 8枚       |
| 「江田島荘」無料ペア宿泊券(A賞)                 | 協賛      | ペア宿泊券2組(1泊2食)             |
| 牡蠣の詰め合わせセット(B賞)                   | 30,000  | 10セット                     |
| リーフレット&ポスター(3種類)                  | 153,670 | リーフレット 6,000部<br>ポスター 36部 |
| オリジナルポストカード&光沢紙<br>(特別乗船イベント)     | 22,445  | ポストカード 60枚<br>光沢紙L判 300枚  |
| 広報費                               | 150,000 | 市広報大使への協力費等               |
| 合計                                | 409,685 |                           |

## 4 実績

○応募者総数 ※()内は昨年からの増減人数等

| A賞<br>(スタンプ6個) | B賞<br>(スタンプ4個以上) | C賞<br>(スタンプ2個以上) | Wチャンス賞<br>(応募者総数の内) | 合計          |
|----------------|------------------|------------------|---------------------|-------------|
| 84名 (+23名)     | 37名 (-11名)       | 70名 (+24名)       | 61名 (+16名)          | 191名 (+36名) |

○居住地別割合 ※()内は昨年からの増減人数等

| 江田島市内      |       | 江田島市外 (広島県内) |       | 広島県外       |       | 合計   |
|------------|-------|--------------|-------|------------|-------|------|
| 43名 (+15名) | 22.5% | 94名 (+6名)    | 49.2% | 54名 (+15名) | 28.3% | 191名 |

○スタンプラリーによる市内航路への乗船回数等

乗船回数：825回 (+147回) 運賃金額 (試算)：553,930円 (+23.7%増)

○SNSへの投稿数 (#乗ってえたじま2021) インスタグラム：198件



## 5 考察

○昨年度と比較し、A賞への応募が増加しました。要因としては、今注目度の高い「江田島荘」と連携し、ペア宿泊券を賞品としたことや、貸切船舶を会場とした特別乗船イベントの開催が、メディア等を通じ幅広く発信されたことが挙げられます。

○コロナ禍にも関わらず、県外からの参加者も増加しました。要因としては、スタンプラリーのリーフレットに、江田島市内の様々な場所で撮影した写真を使用したことが挙げられます。撮影場所を巡る様子のSNS投稿が数多く見受けられたため、江田島市の魅力発信に大きく寄与したと考えられます。

## 6 今後の対応

来年度以降も、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みながら、利用者増加に向け、交通事業者と連携した取組を実施していきます。

# 資料No.4-2

江田島市公共交通協議会  
令和4年3月22日

## 『おでかけ無料乗車 day』について

### 1 概要

誰でも運賃を支払わずに市内の路線バスやおれんじ号に乗車できる「おでかけ無料乗車 day」を実施したので、その結果を報告します。

### 2 取組内容

#### (1) 目的

公共交通の利用促進及び高齢者等の外出支援を図るため、取組を実施しました。

#### (2) 対象路線

- ・市内路線バス（全路線）、江田島北部朝夕便
- ・おれんじ号（江田島北部線・沖美北部線・沖美南部線）

#### (3)実施日

- ・令和3年11月1日（月）市制記念日（※おれんじ号は祝祭日運休のため、11月1日のみの実施）
- ・令和4年2月11日（金・祝）建国記念の日

### 3 乗降人数の実績

【令和3年11月1日（月）】

|               | 平日平均乗車人数（当月） | 11/1 乗車人数(増減人数)  |
|---------------|--------------|------------------|
| 路線バス          | 1,240 人      | 1,504 人 (+264 人) |
| 江田島北部朝夕便      | 9 人          | 11 人 (+2 人)      |
| おれんじ号（江田島北部線） | 4 人          | 4 人 (0 人)        |
| おれんじ号（沖美北部線）  | 11 人         | 24 人 (+13 人)     |
| おれんじ号（沖美南部線）  | 22 人         | 36 人 (+14 人)     |
| 合計            | 1,286 人      | 1,579 人 (+293 人) |

【令和4年2月11日（金・祝）】

|          | 土日祝平均乗車人数（当月） | 2/11 乗車人数(増減人数) |
|----------|---------------|-----------------|
| 路線バス     | 1,079 人       | 1,100 人 (+21 人) |
| 江田島北部朝夕便 | 2 人           | 3 人 (+1 人)      |
| 合計       | 1,080 人       | 1,102 人 (+22 人) |

## 4 利用者アンケート

令和3年11月1日（月）に中継ターミナルゆめタウン前バス停を利用する57名に対し、アンケート調査を行いました。

### 【取組の認知度】

知っていた39人（68.4%）、知らなかった18人（31.6%）

### 【取組がなかった場合の移動方法】

**約3割の方は、取組を知らずに乗車。**

変わらずバスを利用42人（75.0%）、

自動車・バイク・自転車を利用9人（16.1%）出かけていなかった4人（7.1%）、

その他1人（1.8%）

**約2割の方には、取組がバスに乗る動機付けに。**

### 【移動の目的地（複数回答可）】

買い物43人（70.5%）、病院6人（9.8%）、仕事6人（9.8%）、食事2人（3.3%）、その他4人（6.6%）

### 【居住地】

江田島町27人（48.2%）、大柿町15人（26.8%）、能美町7人（12.5%）、  
沖美町2人（3.8%）、市外5人（8.9%）

### 【性別】

男性12人（21.8%）、女性43人（78.2%）

### 【年代】

20代2人（3.6%）、30代3人（5.4%）、40代3人（5.4%）、50代7人（12.5%）、  
60代18人（32.1%）、70代17人（30.4%）、80代6人（10.7%）

**60歳以上の方が7割以上。**

## 5 まとめ

- ・11/1実施分（平日）は、平日平均乗車人数と比べて、乗車人数が120%以上増加しましたが、2/11実施分（祝日）については、顕著な増加は見られませんでした。
- ・利用者アンケートにより、約3割の方は取組を知らずに乗車しているため、より分かりやすい情報発信を行う必要があります。また、約2割の方には取組が、バスに乗る動機付けになっていることが判明しました。
- ・来年度においては、情報発信の工夫や市内イベント時に本取組を行うなど、取組内容の見直しを行いつつ、更なる乗車人数の増加を目指していきます。